

新春特別

歴史シンポジウム

おうにんのらん

第2弾

洛中洛外図屏風に見る

# 応仁の乱

## 乱後の東陣

講演 「洛中洛外図に見る上京」

講師 山本 雅和 氏 (京都市考古資料館 副館長)

応仁の乱 勃発550年

日時 平成29年 **2月26日(日)**  
午後 **1時30分～3時30分**  
(午後1時から受け付けを開始します)

会場 上京区総合庁舎 4階大会議室  
地下鉄「今出川」駅 徒歩5分、市バス「上京区総合庁舎前」下車すぐ

定員 **300名** 参加費 **無料**  
(申込制先着順)

申込み **2月1日(水)～2月15日(水)**

「京都いつでもコール」にて受け付けます。  
イベント名、氏名、電話番号、同伴する方の氏名(2名まで)  
お伝えください。

「京都いつでもコール」

受付時間 午前8時～午後9時(年中無休)

電話 075-661-3755(みなここ) FAX 075-661-5855(ごようはここ)

電子メール 以下のホームページから

パソコン / <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000012821.html>

携帯電話 / <http://www.city.kyoto.lg.jp/mobile/main/page/0000180068.html>

# 京 上京探訪



## 応仁の乱 東陣の地を歩く

～平安から応仁の乱を経て現代まで～



乱勃発の地



**最寄りの駅・バス停**

**東の起点** 地下鉄烏丸線「今出川」駅、「鞍馬口」駅  
市バス 51、59、201、203、102系統「烏丸今出川」

**西の起点** 市バス 9、12、51、59、67、201、203、101、102系統「堀川今出川」

【注意事項】 このマップは、まち歩き資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また住民の方々のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。  
上京探訪シナリオ研究会 作成 【発行】 京都市上京区役所 京都市印刷物 第275057号 平成27年11月発行 【お問い合わせ】 京都市上京区役所総務・防災担当 ☎075-441-5029



# 応仁の乱と細川勝元邸

ひがしじん 東陣プロジェクト じっこう いいんかい 実行委員会 きょうとし かみぎょうやくくしょ 京都市上京区役所 きょうとし こうこしりょうかん 京都市考古資料館

せんごく じ だい まく あ 戦国時代の幕開けとされる応仁の乱は、**応仁元年(1467)**に勃発した。正月の御霊の森(現在の御霊

じんじゃ けいだい しゅうへん たたか はじ がつ やま な そうぜん たいしゅう せいくん ほそかわ かつもと たいしゅう とうぐん 神社境内周辺)の戦いに始まり、5月には山名宗全を大将とする西軍と細川勝元を大将とする東軍とが

かみぎょう ちゅうしん はげ たたか く ひる せいくん とうぐん ほりかわ おがわ はさ たいじ せいくん きよてん 上京を中心に激しい戦いを繰り広げた。西軍・東軍は堀川や小川を挟んで対峙したが、西軍の拠点であった

やま な そうぜん ていたく しゅうへん にしじん げんざい な の こ たい とうぐん ほそかわ かつもと ていたく 山名宗全の邸宅周辺は「西陣」として現在に名を残しているのに対して、東軍の細川勝元の邸宅は、この

せつめいばん おがわ じ どうこうえん きたがわ いったい かんが 説明版がある小川児童公園の北側一帯にあったと考えられている。

おうにん らん ご ふっこう せんごく じ だい きょうと けいかん かつしゃ うえすぎ ほんらく ちゅうらくが い ず びょうぶ かみ たちうりど おりき たがわ 応仁の乱後に復興した戦国時代の京都の景観を活写する『上杉本洛中洛外図屏風』では、上立売通北側・

おがわ どりひがしかわ ひがし なが ほそかわ し ていたく ほそかわ どの おお えが ついじ べい かこ 小川通東側に東から眺めた細川氏の邸宅「細川殿」がひととき大きく描かれている。築地塀に囲まれた

ていたく ない ろうか むす こけらぶ たてもの の き つら おお ひとびと い か なんぶ ひる 邸宅内には、廊下で結ばれた柿葺きの建物が軒を連ね、多くの人々が行き交っている。また、南部に広がる

いけ にわいし はい ていえん こうはく うめ はな さ ほこ みずどり あそ ほそかわ かつもと く ていたく 池や庭石を配した庭園では紅白の梅の花が咲き誇り、水鳥が遊んでいる。細川勝元が暮らした邸宅の

いま しの じょうけい ようすを今に偲ぶことができる情景である。

## Hosokawa Residence & the Onin War

Raising the curtain on the Sengoku Period, the Onin War broke out in the year 1467 (Onin 1). In January, fighting began in a forest called Goryo no mori (currently the area around Kami-goryo Shrine). By May fierce fighting between Yamana Sozen's western army and Hosokawa Katsumoto's eastern army had spread across the heart of what is now the Kamigyō area. The eastern and western armies squared off in the space between Horikawa-dori St. and Ogawa-dori St. with Yamana's base of operations located near his mansion in the present day area of Nishijin. Hosokawa's army was gathered at the site of his former mansion and current thinking places it near the northern part of the Ogawa Children's Park.

The Uesugi version of Rakuchū rakugai zu (Scenes in and around the Capital) vividly brings to life the landscape of Kyoto during the Sengoku Period following the end of the Onin War. Drawn remarkably large in the painting is the view from above of Hosokawa-dono or the Hosokawa Residence angled from the north side of Kamidachiuri-dori St. and east side of Ogawa-dori St. Inside the walled mansion complex, people come and go passing along through the many wooden-shingled buildings connected by corridors. Also, depicted in the southern portion of the complex is a garden arranged with stones and an ample pond where white and red plum trees are in full bloom and water birds roam freely. It is a scene that allows viewers in the present to think about the past and the conditions within the residence in which Hosokawa Katsumoto lived.



せんごくき かみぎょう ふくげんず 「戦国期上京復元図」  
やまだくにかず さくず (山田邦和 作図)

ほそかわ どの ようす うえすぎ ほんらく ちゅうらくが い ず びょうぶ よねざわ し うえすぎ はくぶつ かんぞう 「細川殿」の様子(『上杉本洛中洛外図屏風(米沢市上杉博物館蔵)』)

東  
ひがしじん

陣

# 応仁の乱発端の地・御霊神社

ひがしじん 東陣プロジェクト実行委員会      じっごう いいんかい 京都市上京区役所      きょうとし かみぎょうやくしよ 京都市上京区役所      きょうとし こうこしりょうかん 京都市考古資料館

ごりょう じんじや 御霊神社は、かみごりょうしや 上御霊社とも呼ばれ、よ 上京のじんじや 人々を中心に、あつ 広く信仰を集める、ゆいしょ 由緒ある、じんじや 神社である。せんごく 戦国

じだい 時代のまくあ 幕開けとなった、おうにん 応仁のらん 乱は、ぶんしやう 文正2年(おうにん 応仁元年)1月18日に、ごりょう 御霊のもり 森に、じん 陣を、かま 構えた

はたけやま まさなが 畠山政長(とうぐん 東軍)を、はたけやま よしひろ 畠山義就(せいぐん 西軍)が、しゅうげき 襲撃した、ごりょう 御霊のもり 森に、じん 陣を、かま 構えた、はたけやま まさなが 畠山政長(とうぐん 東軍)を、はたけやま よしひろ 畠山義就(せいぐん 西軍)が、しゅうげき 襲撃した、ごりょう 御霊のもり 森に、じん 陣を、かま 構えた。

はたけやま まさなが 畠山政長が、ごりょう 御霊のもり 森に、じん 陣を、かま 構えた、はたけやま まさなが 畠山政長が、ごりょう 御霊のもり 森に、じん 陣を、かま 構えた理由には、けいだい 境内が、ひろ 広く、しゅうい 周囲に、ほり 堀や、かわ 川があり、ぼうぎよ 防御に、てき 適していたこと、

きんりん 近隣に、ほそかわ 細川勝元ら、かつもと 味方の、みかた 邸宅があり、えんぐん 援軍が、きたい 期待できたことなどが、かんが 考えられる。いちちゅう や つづ 一昼夜、つづ 続いた、たたか 戦いは、

はたけやま よしひろ 畠山義就の、しょうり 勝利となり、はたけやま まさなが 畠山政長は、せいらん 敗走するが、これより、ねんかん 11年間に、おおよぶ 戦乱が、はじ 始まったのである。

おうにん 応仁のらん 乱後に、せいりつ 成立した、『うえすぎほんらくちゅうらくがいず 上杉本洛中洛外図屏風』では、かみぎょう 上京の、みぎ 右下に、とうから 眺めた、かま 構図で、「ごりょう 上御霊社」

が、えが 描かれている。てまえ 手前に、ひわだ 檜皮葺の本殿と、ほんでん 拝殿、にしがわ 西側に、おお 大きな、しゅぬ 朱塗りの、とりい 鳥居が、かさ そびえており、さか 笠をかぶった

はくい 白衣の、そうりよ 僧侶や、さんけいしや 参詣者の、すかた 姿が見える。また、けいだい 境内には、まつ 松や、つばき 椿の、じゅもく 樹木が、にしがわ 西側に、かわ 川が、なが 流れている。

ごりょう 御霊合戦の、ころ 頃の、「ごりょう 御霊のもり 森」の様子を、ようす 彷彿と、ほうぶつ させる、けいかん 景観である。

## Goryo Shrine: Origin of the Onin War

Goryo Shrine, also more familiarly known as Kami-goryo Shrine, is a Shinto shrine which has a long history and has been mainly worshiped by the people living in the Kamigyō area. Opening the Sengoku period, the Onin War began on January 18, 1467 (Bunsho 2) at Goryo Shrine (Goryo no Mori) with the soldiers of Hatakeyama Masanaga (Eastern Army) attacking Hatakeyama Yoshihiro (Western Army) in the Battle of Goryo.

It is thought that the reason Hatakeyama Masanaga had his soldiers encamp at Goryo no Mori or Goryo Forest is that the forest provided ample space with suitable protections offered by ditches and rivers, along with the potential for reinforcements coming from his ally Hosokawa Katsumoto's villa which was located nearby. The battle continued for over a day, resulting in an 11-year long war which would ultimately see Hatakeyama Yoshihiro victorious and Hatakeyama Masanaga defeated.

Completed after the Onin War, the Uesugi version of Rakuchū rakugai zu (Scenes in and around the Capital) screen depicts Kyoto facing eastward with the Kami-goryo Shrine, located in the area of Kamigyō, in the lower right portion of the composition. In the foreground is framed by the cypress bark roof of the shrine's inner sanctuary and worship hall with a large vermilion colored torii gate on the western side, and priests are portrayed wearing white with conical hats alongside worshippers. Additionally, painted within the temple complex vegetation are pine trees and camellia scrubs, and also there is a river shown running to the west. It is thought this scenery is comparably close to the Goryo Forest just before the outbreak of the Battle of Goryo.



ごりょう 御霊神社(ごりょう 上御霊社)の様子(『上杉本洛中洛外図屏風(米沢市上杉博物館蔵)』)

せんごくき 戦国期上京復元図  
「戦国期上京復元図」  
やまだ くにかず 山田邦和 作図

東  
ひがしじん  
陣

# せんごくじだい かみぎょう けっしゅうてん こうどう ぎょうがんじ 戦国時代上京の結集点・革堂(行願寺)

ひがしじん 東陣プロジェクト実行委員会 | じっごう いいんかい 京都市上京区役所 | きょうとし かみぎょうやくしよ 京都市考古資料館

かつて小川通には、道路に沿って『小川(こかわ)』と呼ばれた川筋が南流していた。この広場も小川を埋め立てた位置にあたる。戦国時代には、小川通の西側に面して北小路(現在の今出川通)から一条通の間に、北から誓願寺・革堂(行願寺)・百万遍(知恩寺)の3つの大寺院が麓を誇って建ち並び、人々の厚い信仰を受けていた。中でも革堂は、上京の町堂(集会所)として利用され、有事の際には早鐘が打ち鳴らされて住民たちが寄り合う、上京の自治の結集点として機能していた。

また、『上杉本洛中洛外図屏風』では、革堂の本堂南側に風呂があり、下帯姿で入浴する人物や裏手の「はねつるべ(井戸水を効率よく汲み上げるための装置)」が、小川通を行き交う人々の賑やかな様子とともに描かれている。

現在、3つの寺院はそれぞれ他所へと移転したが、元誓願寺通、革堂町、元百万遍町など、今も残る地名に在りし日の景観を偲ぶことができるだろう。

Koudou (Gyogan-ji Temple):  
As an assembly point for Kamigyō community during Sengoku period

There was a river called “Kokawa” along Ogawa-dori street running towards the south. This space stands on the landfill of the river. During the Sengoku period, there stood impressively three great temples, namely Seigan-ji Temple, Koudou (Gyogan-ji-Temple) and Hyakumanben (Chion-ji Temple), and they were worshipped by local people. Among all, Koudou was used as a community center for Kamigyō district and as an assembly point for its residents where they sheltered themselves at the time of emergency notified by ringing an alert bell. In the Folding Screen of Scenes In and Around the Capital Uesugi Version, a bustle of Ogawa-dori are described with scenery of people bathing with underwear in a public bath and Hanetsurube, a well with a pulley system. At present, those three temples are relocated to different areas.



せんごくき かみぎょうふくげんず  
「戦国期上京復元図」  
やまだ くにかず さくず  
(山田邦和 作図)

みぎ せいがんじ こうどう ぎょうがんじ ふる ひやくまんべん ちおんじ  
右から誓願寺・革堂(行願寺)・風呂・百万遍(知恩寺)  
うえすぎほんらくちゅうらくがいず びょうぶ よねざわ し うえすぎはくぶつかんぞう  
(『上杉本洛中洛外図屏風(米沢市上杉博物館蔵)』)

東  
ひがしじん  
陣

# 『真如堂縁起絵巻』に見る応仁の乱

ひがしじん 東陣プロジェクト実行委員会 | じっこう いいんかい 京都市上京区役所 | きょうとし かみぎょうくやくしょ 京都市考古資料館

しんにょどう しんしやう ごくらくじ えんりやくじ かいざん かぐら おか よしだ やま ひがし かいそう てんだいしやう じいん  
**真如堂（真正極楽寺）は、延暦寺の戒算が神楽岡（吉田山）の東に開創した天台宗の寺院である。**

あ み だ ぶ つ ほんぞん ねんぶつ どうじやう しんこう あつ おうにん らん ま こ  
**阿弥陀仏を本尊とする念仏の道場として信仰を集めていたが、応仁の乱（1467～1477）に巻き込まれ、堂塔は損壊、焼失した。応仁の乱が終息した文明10年（1478）、一条西洞院（現在地の上京区元真如堂町）に再建されるが、その後も移転、焼失を繰り返し、現在の寺地（左京区浄土寺真如町）には元禄6年（1693）に再建されている。**

じゅうやう ぶんか ざい しんにょどう えんぎ え ま き だいえい ねん せいさく かん え ま き も の なか  
**重要文化財『真如堂縁起絵巻』は、大永4年（1524）に制作された3巻の絵巻物である。中でも**

おうにん らん ようす えが げかん にほん し きやうかしや いんよう し ほんどう らんにゆう  
**応仁の乱の様子を描いた下巻は、日本史の教科書に引用されることで知られている。本堂に乱入して**

たてく けんざい りやくだつ はんら はらまき くさずり けいそう かなたな ふ あしがる かれ しき  
**建具や建材を略奪する半裸あるいは腹巻・草摺のみの軽装で刀を振りかざす足軽たち、彼らを指揮する**

ばじやう むしや すがた せんらん なか ぼうぎやく こんらん なまなま つた  
**馬上の武者の姿から戦乱中の暴虐・混乱が生々しく伝わってくる。**

せつめい ばん しんにょ どう ふか げんざい ち おうにん らん じだい しの  
**この説明板は、真如堂にゆかりの深い現在地で、応仁の乱の時代を偲ぶものである。**

## The Onin War Depicted in the “Shinnyodo Engi” Picture Scrolls

Shinsho Gokuraku-ji Temple, also known as Shinnyo-do, is a temple of Tendai sect founded by Kaizan, a priest of Enryakuji Temple in the east side of Kagura-oka (Mt. Yoshida-yama). It was dedicated to Amitabha Buddha and worshipped by prayers for rebirth in the Pure Land, but the temple was caught up in the Onin War (1467-1477) and its buildings were destroyed and burnt down. In 1478 (Bunmei 10) after the Onin War had ended, the temple was rebuilt in Ichijo Nishinoto-in area (current Moto-shinnyodo-cho in Kamigyo Ward). However, it was relocated and burnt down for several times to be rebuilt at the current site in Jodoji-Shinnyo-cho, Sakyo Ward in 1693 (Genroku 6).

“Shinnyodo Engi,” an Important Cultural Property, is a set of three picture scrolls created in 1524 (Daiei 4). In particular, the scene of the Onin War is well known for being cited in Japanese history textbooks. There illustrated are ashigaru soldiers, who are half-naked or lightly armored around their body and waist, raising up their swords and breaking in the main hall of the temple to plunder its fixtures and building materials, and their military commanders on horseback. It graphically portrays violence and chaos of the battlefield.

This board stands at the location, which is closely associated with the Shinnyo-do, and reminds us of the period of Onin War.



りやくだつ あしがる しんにょどう えんぎ えまき しんしやうごくらくじ ぞう  
 略奪する足軽たち（『真如堂縁起絵巻（真正極楽寺蔵）』）

せんごくき かみぎやう ふくげんず  
 「戦国期上京復元図」  
 やまだ くにかず さくず  
 （山田邦和 作図）

東

ひがしじん

陣